

障害者支援施設 障害者福祉センター友愛寮

1 基本方針

思いやりと友愛の心を持ち、豊かで心のこもった利用者本位の質の高い福祉サービスを提供するため、職員一人ひとりが専門職としての資質向上に努め、安全かつ安心に、楽しく有意義に生活できるよう支援する。

地域とのつながりや共生を重視し、介護・支援を必要とする地域住民のニーズに応えられるよう、施設入所・通所・短期入所など各サービスの充実を図る。

2 利用者の状況（令和5年3月31日現在）

（1）入所者状況

(人)

| 利用人数 | | 前年度末利用者数 | 令和4年度中の入退所状況 | | | | | | | | 利用延人員 | 定員に対する年間平均稼働率 | 年度末利用者数 | |
|--------|--------|----------|--------------|------|-------|-------|------|------|----|-----------|--------|---------------|---------|----|
| 区分 | 定員 | | 入所人員 | 退所人員 | 退所理由別 | | | | 死亡 | | | | | |
| | | | | | 地域移行 | | 家庭復帰 | 施設移管 | | 契約解除(入院等) | | | | |
| | | | | | GH | アパート等 | | | | | | | | |
| 生活介護 | 50 | 54 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 12,734 | 94.6% | 54 | |
| 施設入所支援 | 50 | 47 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 16,675 | 91.3% | 48 | |
| 3年度 | 生活介護 | 50 | 54 | 4 | 4 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 1 | 12,769 | 94.9% | 54 |
| | 施設入所支援 | 50 | 46 | 4 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 16,593 | 90.9% | 47 |

（2）障害支援区分

①生活介護

(人)

| 性別 | 障害支援区分 | | | | | | | 計 |
|----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| | 非該当 | 区分1 | 区分2 | 区分3 | 区分4 | 区分5 | 区分6 | |
| 男性 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 8 | 15 | 27 |
| 女性 | 0 | 0 | 0 | 2 | 5 | 8 | 12 | 27 |
| 計 | 0 | 0 | 0 | 6 | 5 | 16 | 27 | 54 |

②施設入所支援

(人)

| 性別 | 障害支援区分 | | | | | | | 計 |
|----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| | 非該当 | 区分1 | 区分2 | 区分3 | 区分4 | 区分5 | 区分6 | |
| 男性 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 8 | 12 | 23 |
| 女性 | 0 | 0 | 0 | 2 | 4 | 8 | 11 | 25 |
| 計 | 0 | 0 | 0 | 5 | 4 | 16 | 23 | 48 |

3 事業の実施状況

（1）安定的な施設運営及び施設の環境整備状況について

ア 新型コロナ陽性に伴う重篤化での入院(3名)、通所・短期入所の受け入れ中止、かつ事業団内他施設への移管(1名)、長期入院(1名)などがあり、目標稼働率を下回った。

他施設からの編入希望についても、コロナが影響して面会できないなど手続きを進めることが困難で、かつ利用者の高齢化・重度化も顕著であることから入退院が頻繁であり、ようやくコロナの収束気味の年度末に入所があったものの稼働率は回復しなかった。

稼働率実績(目標)

生活介護 94.6%(目標:95.0%)、施設入所支援 91.3%(目標:91.0%)

短期入所 20.9%(目標:50.0%)

イ 緊急災害時に備え、室内灯などの点検整備、非常用電源装置の使用方法や保管場所の確認などを徹底するとともに、新型コロナウイルスのクラスター発生の経験を踏まえ、感染症対策物品の確保を進めた。

ウ 建替計画に係る検討については、新型コロナによる経営面への影響や建築資材の高騰等を

考慮するとハード面での検討は流動的にならざるを得なかった。

まずは新たな施設のコンセプトやそれにより求められる施設の役割や定数等のソフト面での課題の整理などの検討を急ぎたい。

(2) 利用者の満足度の高いサービス提供について

ア 各部署が協働し、日々の利用者、家族との関わりの中から必要なニーズ把握に努め、6か月に1回ケアカンファレンスにて利用者状況・課題等について話し合いや情報共有並びに共通理解を深めている。

また、月評にて個別支援計画をもとにモニタリング等の状況をまとめ評価することで、個別支援計画の充実を図ることができた。

イ 知識や技術向上を目的とした研修については、感染症予防、排泄、ガウンテクニックなどの寮内で実施するとともに、外部での研修受講の内容を職員に周知共有するため、施設内の復命研修を実施し、介護技術の知識向上等に努めた。

ウ 保護者・利用者へ満足度アンケートを実施し、集計、検証を行い、要望や意見に対して改善に取り組み、サービス向上に努めた。

エ 施設入所者全員のための会、意見箱の活用により苦情や意見を汲み取り、苦情解決委員会で検討し、第三者委員の助言もいただきながら、施設運営や支援の改善に努めた。

オ 施設内における虐待やハラスメントの防止などについては、虐待防止チェックシート実施や業務振り返りシートを活用し人権意識の啓発に努めていたが、3月18日に職員による利用者への虐待行為が発覚した。

事案の概要としては、利用者の意に沿わない強引な移動介助や荒々しい言葉掛けであるが、鳥取市へ報告し、市からの施設の聞き取りが行われ、正式に「虐待」と認定された。

併せて、法人においては当該職員及び寮長に対して相当の処分が行われ、現在、虐待防止研修の実施や報告体制の整備など、職員一丸となって再発防止に向けた取組を行っているところである。

カ 食事について、障がいの重度化、疾病により咀嚼、嚥下機能が低下した利用者に対しては、利用者個々に応じて刻み食やなめらか食等で工夫をこらし、かつ食器類や自助具を検討しながら対応している。

また、嗜好調査や利用者から直接食事に関する意見や要望を献立に反映させるとともに、毎月の行事食や全国の郷土料理、世界各国の料理など、食の時間を楽しんでいただくような様々な食の提供を行っている。

キ 利用者のアセスメントを随時実施し、心身機能の維持・向上が図れるよう個別、生活リハビリの提供に努めるとともに、各部署と情報共有し、介護方法の検討を行った。

また、利用者及び職員双方の負担軽減につなげるために、リフトやスライディングボードなど必要な機器導入を図った。

(3) 医療的ケアの充実について

ア 日々のケアの中で他部署との連携を図り、必要な情報伝達を詳細に行い、異変への早期発見、早期対応につなげている。

イ 有資格者による安心、安全な医療的ケアを実施するため、痰吸引や浣腸などの寮内研修を実施し、手技の確認や評価を実施することで、必要な技術の維持習得に努めることができた。

(4) 地域生活の継続と推進について

ア 通所及び短期入所利用者及びその家族が安心して生活できるようニーズ把握を適切に図るとともに、各利用者の相談員との連携を図り、該当利用者が気兼ねなく当寮のサービスを利用できるよう努めた。

イ 近隣住民との協働・交流については、新型コロナのまん延とともに当寮でのクラスター発生などにより、災害時での協力体制や相互交流など進めることができなかった。

(5) 日中活動の支援について

ア 日中活動として、書道やダンスの講師を招いて、多くの利用者に喜んで参加していただいている。

また、花見や節分、納涼祭やクリスマスなど季節の行事を大切にして利用者の生活の中の喜びにつながるように努めた。

イ 新型コロナの収束傾向を睨みながら、日中活動にボランティアの方の参加を進め、交流が図れるよう関係団体と協議を重ねている。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

| 実習受入先 | 実習期間(月) | 実人員 | 延人員 |
|------------|---------|-----|-----|
| 介護等体験 | 8-11月 | 7人 | 35人 |
| 鳥取社会福祉専門学校 | 11-3月 | 4人 | 19人 |
| 計 | | 11人 | 54人 |

(2) ボランティアの受入実績

鳥取商業高校、青翔開智高校 (各延1人)

5 附帯事業

(1) 短期入所事業 定員 併設4名及び空床型

(2) 日中一時支援事業 定員 上記同様

(3) 利用実績 (人)

| 事業区分 | 今年度利用者数 | | 前年度実績利用者数 | |
|-------------|---------|-----|-----------|-----|
| | 実人員 | 延人員 | 実人員 | 延人員 |
| 短期入所事業(宿泊有) | 6 | 306 | 8 | 336 |
| 日中一時支援事業 | 0 | 0 | 0 | 0 |